

第 21 回都市再生の推進に係る有識者ボード  
議事概要

日時：令和 4 年 6 月 30 日（木） 9:30～11:10

場所：永田町合同庁舎 7 階特別会議室

議事次第

1. 開会
2. 令和 4 年度 都市再生緊急整備地域の新規指定・既指定地域の評価等
3. 都市再生におけるデータ活用の推進について
4. 都市再生基本方針の改定について
5. 閉会

議事要旨（公表部分）

<令和 4 年度 都市再生緊急整備地域の新規指定・既指定地域の評価等>

○事務局より、議事次第 2 の内容を説明

○事務局からの議題は承認された。

<都市再生の最近の動きについて>

○事務局より、都市再生に係る最近の動向について、議事次第 3～4 の内容を説明

（都市再生におけるデータ活用の推進についての主な意見）

○都市再生緊急整備地域についての議論というのはそのままスマートシティーやデジタル田園都市に横展開できる。データはここまで使う、これは使わないという世界ではなく、街ということに関して言えば見るものは同じだということもあると思う。そういう視点で視座を高く持ちデータ活用の推進を行ってほしい。

- オルタナティブデータやその他のデータについて、データを一通貫で見えるようにプラットフォームにストックするなど、ワンストップで見える形に集約したものがあるといい。
- 今までは、都市再生本部が5年に1回都市再生の効果を評価しているのが、自治体職員が自分で自己評価という形で1年に1回評価するという面はモチベーションにもなり、いい取組だと思う。
- モニタリングを広げていくためには、一つ集めたデータがそのエリアの中で他にも活用できるというような、データの活用方法をもう少し考えたほうがいいと思う。
- 都市再生緊急整備地域の指定エリアが大きいところで、地域全体のデータを取らなければいけないと考えるとやりにくい感じもするので、地域の一部に対して空室率がどのくらいとか、そういうデータの取り方でも構わないというような説明も必要である。
- 都市再生緊急整備地域でモニタリングしてだけでなく、その傾向を全国と比べることが必要である。全国のトレンドを見ながら都市再生緊急整備地域を相対的に評価できるような、全国指標を事務局のほうで取っておくことが必要だと思う。
- 環境面のCO2排出量は、床面積あたりのCO2排出量とか、消費額当たりのCO2排出量とか、何かで除した値にしたほうがいいと思う。
- モニタリングは気軽にできるということが重要であり、その気軽にできることの中で問題があればそこから深めていくことが重要だと思う。説明会などでそういった気軽さを求めているということを強調していいと思う。
- 例えば、人流データを買って、それを分析することを毎年行うのは大変である。税務調査を代わりに使うという話があったが、それを使えば100%ではないとしてもある程度の精度で分かるのであれば十分である。100%の精度のものは5年に一度でいいと思う。
- あまり前向きに取り組んでいないところは、何が支障になっているのかを把握する必要がある。自治体にそれぞれの事情があるので、どこでもうまくというわけにはいかないが、事務局のほうで力になれることがあれば、ぜひ力になってほしいと思う。

- ロジックモデルは確かに大変であるが、自治体の EBPM のリテラシーが高まってくると、効果検証を入口の段階で考えるベースができてくる。そういう展望も持ちながら、ロジックモデルを都市再生の地域ではなく、ほかの仕事にも広げていくというような視点が大事である。

以 上